

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3042846号

(45) 発行日 平成9年(1997)11月4日

(24) 登録日 平成9年(1997)8月13日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 1/26
43/08B 6 5 D 1/26
43/08

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平9-3299

(22) 出願日 平成9年(1997)4月25日

(73) 実用新案権者 390022264

岩井通商株式会社

東京都千代田区永田町2丁目4番2号

(72) 考案者 三野 弘彦

東京都千代田区永田町2丁目4番2号 岩
井通商株式会社内

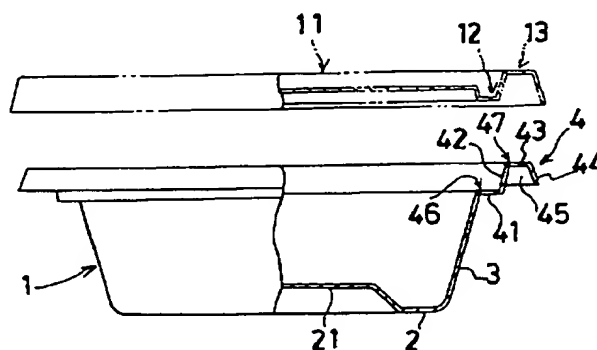
(74) 代理人 弁理士 福田 武通 (外2名)

(54) 【考案の名称】 紙製容器

(57) 【要約】

【課題】 きわめて簡単に、強度が高く、密閉性が良好な紙製容器を提供するようにした。

【解決手段】 1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる深絞り成形によって底面部2と、前記底面部2の周縁から上方に延在する側壁部3と、前記側壁部3の上端に外向きに設けた鏝部4とを有する紙製容器であって、前記鏝部4は、側壁部3の上端から外側に略水平に延びる第1の横部分41と、前記第1の横部分41の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分42と、前記第1の縦部分42の上端から外側に略水平に延びる第2の横部分43と、前記第2の横部分43の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分44とで構成し、前記鏝部4には、前記側壁部3の上端部分及び第1の横部分41によって第1の段部46を構成するとともに、第1の縦部分42及び第2の横部分43とによって第2の段部47を構成し、前記第1の縦部分42の外側と、第2の横部分43の下側、及び第2の縦部分44の内側とにより囲まれる下面開放の溝部45を構成した。



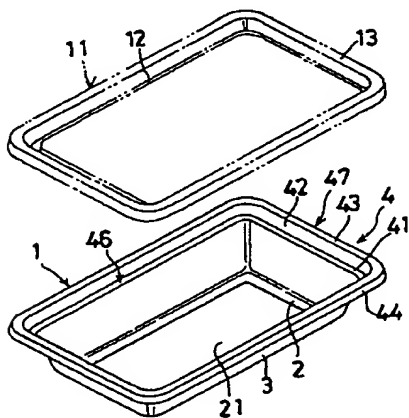
1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる深絞り成形によって底面部と、前記底面部の周縁から上方に延在する側壁部と、前記側壁部の上端に外向きに設けた鏝部とを有する紙製容器であって、前記鏝部は、側壁部の上端から外側に略水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の上端から外側に略水平に延びる第2の横部分と、前記第2の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分とで10構成し、前記鏝部には、前記側壁部の上端部分及び第1の横部分によって第1の段部を構成させるとともに、第1の縦部分及び第2の横部分とによって第2の段部を構成させ、前記第1の縦部分の外側と、第2の横部分の下側、及び第2の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする紙製容器。

【請求項2】 底面部には、上方に高く盛り上がる上げ底部を形成した請求項1に記載の紙製容器。

【図1】



【図面の簡単な説明】

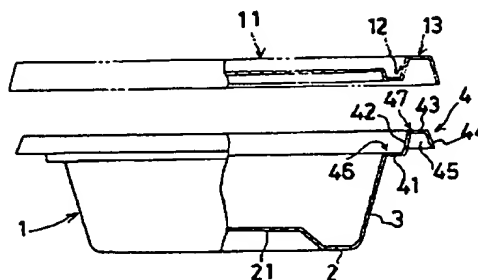
【図1】 容器と蓋材とを分解した斜視図である。

【図2】 一部を断面とした側面図である。

【符号の説明】

- 1 紙製容器
- 2 底面部
- 3 側壁部
- 4 鏝部
- 11 蓋材
- 12 第1の屈曲部
- 13 第2の屈曲部
- 21 上げ底部
- 41 第1の横部分
- 42 第1の縦部分
- 43 第2の横部分
- 44 第2の縦部分
- 45 溝部
- 46 第1の段部
- 47 第2の段部

【図2】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、飲食物の収納容器として、若しくはめん類の包装用容器として使用することができる紙製容器に関するものである。

【0002】**【従来技術】**

周知のように、紙製の容器は他種の食料品分野で使用されている。

例えば、従来から使用されている熱湯を注入して数分間待つだけで調理することができるめん類の紙製収納容器や、弁当や惣菜等を収納する紙製の容器は、開放上端縁に外向きの水平な鏝部を設けたり、緩い円弧状の鏝部を設けただけの構造である。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

したがって、強度が不足するので、内部に食品等を収納して流通過程に置かれると、容器自体が外部からの衝撃等で変形し、内容物までも形崩れしたり破損することがある。また、容器の開放上面の鏝部だけではヒートシールし難いので、容器の内部を十分に密閉することができない。

したがって、きわめて強度に富むばかりでなく、開放上面を密閉することができ、しかも簡単に製造することができる紙製容器が要望されている。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案は前記従来からの欠点に鑑み、また従来からの要望に基づいて提案されたもので、1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる深絞り成形によって底面部と、前記底面部の周縁から上方に延在する側壁部と、前記側壁部の上端に外向きに設けた鏝部とを有する紙製容器であって、前記鏝部は、側壁部の上端から外側に略水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の上端から外側に略水平に延びる第2の横部分と、前記第2の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦

部分とで構成し、前記鏝部には、前記側壁部の上端部分及び第 1 の横部分によって第 1 の段部を構成させるとともに、第 1 の縦部分及び第 2 の横部分とによって第 2 の段部を構成させ、前記第 1 の縦部分の外側と、第 2 の横部分の下側、及び第 2 の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする。

【0005】

【考案の実施の形態】

以下に本考案の実施の形態を図面に基づいて説明する。

本考案の紙製容器 1 は、1 枚の厚紙状の紙材を原材料として、1 回のプレスによる深絞り成形によって、底面部 2 と、前記底面部 2 の周縁から上方に延在するように屈曲成形した側壁部 3 と、前記側壁部 3 の上端に外向きに設けた鏝部 4 とを有する構成で、平面視において全体が三角形以上の多角形状であってもよいし、円形若しくは楕円形状であってもよい。

【0006】

前記鏝部 4 は、前記側壁部 3 の上端から外側にほぼ水平に延びる第 1 の横部分 4 1 と、前記第 1 の横部分 4 1 の外端縁から上方に向って延びる第 1 の縦部分 4 2 と、前記第 1 の縦部分 4 2 の上端から外側に略水平に延びる第 2 の横部分 4 3 と、前記第 2 の横部分 4 3 の外端縁から下方に向って延びる第 2 の縦部分 4 4 とで構成してあるので、第 1 の縦部分 4 2 の外側と、第 2 の横部分 4 3 の下側と、第 2 の縦部分 4 4 の内側とにより囲まれる下面が開放する溝部 4 5 を有する。

【0007】

そして、前記鏝部 4 には、前記側壁部 3 の上端部分及び第 1 の横部分 4 1 によって第 1 の段部 4 6 を構成するとともに、前記第 1 の縦部分 4 2 と第 2 の横部分 4 3 とによって第 2 の段部 4 7 を構成してあるので、前記第 1 の段部 4 6 の外側上方に第 2 の段部 4 7 が位置することになる。

【0008】

また、前記底面部 2 には、紙製容器 1 の内部に向って上方に高く盛り上がる上げ底部 2 1 を形成すると、底面部 2 ばかりでなく紙製容器 1 全体の強度を著しく高めることができる。

【0009】

前記した紙製容器1は、樹脂をラミネートしたりコーティングして適宜に表面装飾用の印刷をした厚紙を原材料として、雄金型と雌金型とを使用し、1回のプレス作動によって深絞り成形することにより成形することができる。

そして、紙製容器1が平面視円形であれば、中華めんやそばめん、うどん等の即席めん類の収納容器として使用したり、深皿として使用することができる。また、紙製容器1が平面視四辺形状等の多角形状であれば、弁当や惣菜等の収納容器として使用することができる。

【0010】

本考案の紙製容器1に使用する蓋材11の一例として、厚紙を原材料としてプレス成形したものを使用することができる。

前記蓋材11は、外周縁に前記第1の横部分41と第1の縦部分42とに密接する第1の屈曲部12を形成するとともに、前記第2の横部分43と第2の縦部分44とに密接することができる第2の屈曲部13を形成した構成である。

【0011】

したがって、前記紙製容器1に内容物を収納した状態で蓋材11を被着すると、第1の横部分41と第1の縦部分42とに第1の屈曲部12が密着し、第2の横部分43と第2の縦部分44とに第2の屈曲部13が密着するので、紙製容器1を密閉状にすることができ、特に紙製容器1の内容物を充分に保護することができる。

また、蓋材11の外周縁に第1の屈曲部12と第2の屈曲部13とが形成されているので、蓋材11自体の強度を高めることができ、紙製容器1の変形や破損防止効果をさらに高めることができる。

【0012】

以上要するに、本考案の紙製容器は、1枚の厚手の紙材を原材料として、プレスによる深絞り成形によって底面部と、前記底面部の周縁から上方に延在する側壁部と、前記側壁部の上端に外向きに設けた鏝部とを有する紙製容器であって、前記鏝部は、側壁部の上端から外側に略水平に延びる第1の横部分と、前記第1の横部分の外端縁から上方に向って延びる第1の縦部分と、前記第1の縦部分の

上端から外側に略水平に延びる第2の横部分と、前記第2の横部分の外端縁から下方に向って延びる第2の縦部分とで構成し、前記鏝部には、前記側壁部の上端部分及び第1の横部分によって第1の段部を構成させるとともに、第1の縦部分及び第2の横部分とによって第2の段部を構成させ、前記第1の縦部分の外側と、第2の横部分の下側、及び第2の縦部分の内側とにより囲まれる下面開放の溝部を構成したことを特徴とする。

【0013】

【考案の効果】

したがって、容器の平面視形状が円形であれば中華麺、そばめん等のめん類の収納容器として、又は深い皿として利用することができるし、四辺形状であれば弁当、惣菜、その他の収納容器として利用することができ、広範に、多目的に使用することができるものである。しかも、1回のプレスできわめて簡単に、寸法精度の高い紙製容器を製造可能なばかりでなく、鏝部に設けた段部や、底面部に設けた上げ底部により著しく強度が高いため、外部からの衝撃があっても変形し難いし、内容物が損傷したり形崩れしない。さらには、第1の横部分、第2の横部分等水平な部分で蓋枠材や樹脂フィルムをヒート・シールできるので容器の内部を密閉することができ、塵埃等が内部に侵入しないので、特に食品の収納容器としてきわめて実用的価値の高いものとなる。